平成17年に全校生徒で二子山登山を体験した早口小学校を訪ね、お話を聞きました

おもしろがって登ってましたよ

早口小学校　明石 桂（けい）先生

早口小学校では、毎年、問題を解きながら学区内を探検するフィールドワーク形式の遠足「秋の冒険」というのを実施しています。平成17年は学校創立130周年に当たる節目の年だったので、自分たちの故郷をもう一度見直そうということで、子供たちが登ったことの無い二子山をコースに組み入れました。

当日は全校児童132人が参加しましたが、雨が降って滑りやすい状態だったので「1、2年生は無理しなくていいよ。登れる人だけ登ってみよう」って言ったんです。でも、おもしろがってほとんどの子どもたちが登ったんじゃないかと思います。

学校からも見える二子山は、校章に使われているほど身近な山なんですよね。また、校歌の2番には『♪田代の山に見守られ伸びゆく早口小学校♪』という歌詞があるんですけど「田代の山」って二子山なのかなって。そういう意味もあって、中腹手前まで登ったところで「校歌2番のラストを頂上に向かって歌おう」という問題を出して、みんなで大きな声で歌いました。

そこから先は道が狭く、子どもたちには危ないかなと判断して山頂までは登りませんでした。帰りは、ズルズル滑るような足元のせいで、みんな滑るような感じで下ってきましたね（笑）。

登山道が整備されたとき登るとすれば、故郷に目を向けようという総合学習の時間がある3、4年生が対象ですかね。そのときには、山の説明をするガイドや保護者の協力が必要になりますが、ふるさと教育の視点からも学校でどうするか考えて、実現出来ればいいなと思います。

雨の中、滑りながら二子山登山を初体験

二子山の良さを再認識、再生計画の実現を願う

昔を今に伝えようと、双子会では7人の有志が小さな活動を続け、頑張っていました。

応募した「地域応援プラン」は、残念ながら採択されませんでしたが、彼らの二子山の再生に賭ける夢を聞き、その思いはひしひしと伝わってきました。

来年に向けて、既に応募の準備が進められているとのこと、今度はぜひ採択されることを願うばかりです。

取材を通じて、この山には多くの歴史があることも知りました。また、実際に登ってみた山頂からはとても良い眺めで、高く伸びた雑木が刈り払われたら、もっと素晴らしい景色が広がるはずです。

今はまだ雑木に覆われた山ですが、整備されたときには、子どもたちはもちろんのこと地域の皆さんで登りませんか。

「私たちのふるさとは、こんなに素晴らしいところなんだよー」と気付いて欲しいですからね。

昭和30年ごろの早口小学校の遠足

田代野球場から見る二子山

昭和30年代の二子山での写真（3枚）は、田代郷土史会の小林勉さんから提供していただきました。